

人身受け難し、今已に受く。 仏法聞き難し、今已に聞く。

明宝 大坪 善典

私の母は、78歳の平成15年5月昼間にお茶を摘み、夜に茶葉を煎っているときに倒れました。私と妻、弟の3人で市民病院に駆け込んだところ、とりあえず、入院とのことでした。朝になりようやく先生が診察に見えました所、少し様子を見て、これはもうだめです。近い人たちに連絡をとられ、母の実家や自分の姉弟に電話を入れました。神奈川の松田町から兄弟たちが病人に正午近くにつき、近いものがそろいました。それを伝えると、先生が人工呼吸器をつけますかと尋ねられました。母はそれを望んでいないことを以前話していたので、その旨伝えました。心肺蘇生の手が止まり、13時16分ご臨終ですと。

母は松田町のミカン農家で長女として生を受けました。父は体が小さかった為か、兵隊の件さが甲種ではなく、乙種のようなものでした。その為、全国から、乙種の兵隊さんが集まり入隊したのが、母が代用教員として通っている学校の近くの部隊だったようです。そんな戦争の縁で私たち姉弟がいのちを受けましたが、戦後の食糧難、伝染病もあり次女、三女は幼くして、命を終わっていきました。私も難産だったようで、へその緒が首に絡み逆子仮死状態で出産されたとのことでした。そこで産婆さんが両足を持ち、逆さまにして、背中を手でたたいたそうです。産婆さんの経験と技、生かそうとする願いがかなったようで、ようやく産声を上げたそうです。

4年後に双子の弟が生まれましたが、一人は残念なことに死産でした。父と一緒にミカン箱に納めて近くにある火葬場にいったあの日のことを今でも覚えています。私も68歳、もう少しで69歳になろうとしています。50代半ばの頃門徒会員を頼まれ、その役目も責任も考えることなく軽く引き受けて今に至っています。

門徒会員になった初めの頃、「三歸依文」を何の事かも知らず、見よう見まねで唱和していました。呪文のようにしか受け取っていませんでしたが、様々な場所、ご法話、人々等たくさんのお会いの中で、数多くご縁を頂いていたことで今日まで生かされている私であることに少し気が付いたつもりです。南無阿弥陀仏・南無阿弥陀仏。